

第21回日本健康福祉政策学会学術大会 東京大会

コミュニティのこれから

～ひらく・つながる・ひろがる～



日時：平成29年11月4日（土）・5日（日）

※11月3日（金・祝日）エクスカーション

場所：杏林大学 井の頭キャンパス F棟

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1

○大会長ごあいさつ

コミュニティのこれから～ひらく・つながる・ひろがる

杏林大学総合政策学部
進邦徹夫

真新しいキャンパスは、まだわたしたち教職員もそわそわしてしまいます。移転に伴う三鷹市様や近隣のみなさまからのご期待は、非常に大きなもので、十分に伝えることができるよう、教職員一同が日々奮闘しているところです。

今回、学術大会で皆さまをお招きする東京都三鷹市は、都心から中央線で15分程度のところに位置するベッドタウンです。1930年代に軍需産業の工場が都内より移転してきてから、人口が増加しはじめ1950年代以降宅地化が進められていきました。進むベッドタウン化のいっぽうで、課題になっていったのが、旧住民と新住民の摩擦でした。この摩擦を解消するために、三鷹市で進められていったのが、コミュニティ行政でした。

三鷹市のコミュニティ行政による長い歴史と伝統に培われた住民の活動を、ぜひ全国から集まる学術大会の参加者のみなさまにお伝えしたい、そのためにサブタイトルに「コミュニティ」の言葉を入れました。

「コミュニティ」の思いは、福島の中かまへの思い出もあります。あの惨禍から6年半が経ちました。一昨年の福幸志縁ふくしまセミナーでは、福島第一原発事故に伴う避難が続く南相

馬市、浪江町、大熊町、川内村などを訪問する機会を得ました。飯舘村を通過中に、バス車窓から見えた真っ黒なフレコンバッグは大きな衝撃でした。

故郷を離れて生活を強いられている方々が多い中で、福島での人と人とのつながりは、コミュニティは、どうなっていくのだろう、初日に「おだかだより」と題したセッションを設けさせていただいたのは、そんな思いからです。原発事故の影響で、昨夏までの5年間、避難指示が出されていた南相馬市小高区。毎月、小高の様子を伝える『おだかだより』には、小高の今が記されています。小高のこと、コミュニティのこと、たくさんお話していただきます。

どの壁新聞、井戸端会議にも参加してみたいと思うほど、魅力的な学術大会になっていると自負しています。スタッフ一同、お待ちしております。

○大会日程

11月3日(金)

13:00	エクスカージョン みたか文学さんぽ ※概ね2時間40分を予定しています。 集合場所(三鷹駅南口デッキ)→太宰治仕事部屋跡→(玉川上水に沿って・風の散歩道)→入水場所(玉鹿石)→山本有三記念館→太宰治旧居跡→禅林寺(太宰治・森鷗外の墓)→(トイレ休憩)→太宰治文学サロン→三鷹駅で解散
-------	--

11月4日(土)

10:00	開会式
10:10	基調報告 三鷹市のコミュニティ行政 進邦徹夫さん(杏林大学)
10:40	おだかだより 福島県南相馬市小高区のいま 伏見香代さん(相馬こころのケアセンターなごみ) 広畑裕子さん(おだかぷらっとほーむ) 太田ひろみさん(杏林大学)
12:00	昼食
13:00	壁新聞発表
14:00	「多摩の居場所づくり」～三鷹健康福祉サミット 加藤雅江さん(NPO法人だんだん・ばあ) 竹上恭子さん(みんなのブックカフェ) 吉田恭子さん(NPO法人エンツリー) ルモアン直美さん(駅前ラジオ体操&朝カフェ) ※コーディネーター 山口忍さん(茨城県立医療大学)
16:10	井戸端会議
18:00	懇親会 ※本学食堂

11月5日(日)

10:00	記念講演 コミュニティ創生としての地域ケアネットワーク 清原慶子氏(東京都三鷹市長)
12:00	昼食
13:00	井戸端会議
14:30	公開討論会
15:50	閉会式

○井戸端会議(ワークショップ)

日時	テーマ	代表者	所属
4月(土)	1 「居場所」ってなんだろう。居心地の良い『居場所』って？どうすれば『居場所』を立ち上げられる？『居場所づくり』で困っていること、わからないこと、みんなで共有して考えてみませんか？	橋本 由利子	NPO法人 コーヒータイム
	2 「ワンオペ育児」などという言葉もあるくらいで、子育てをするママさんたちは孤独な育児に苦しんでいます。子育てを楽しむ環境づくりを進めるためには、どんな工夫が必要でしょうか。	太田 ひろみ	杏林大学
	3 難病の人々が輝き安心して暮らせる茨城をつくりましょう—①難病カフェ一年間の報告と今後の展開、ハローワークと協働した就労支援事業から地域の協働へ、②膠原病患者交流会をとおして—	佐々木 峯子 鴨志田 詠理	茨城県難病相談 支援センター 茨城県竜ヶ崎保 健所
5日(日)	4 介護保険と障害者福祉(2)権利を支える仕組みをどうつづけていくのか	増田 一世	公益社団法人 やどかりの里
	5 再発見！日本健康福祉政策学会のいいところ・期待できること —くるまぎになって井戸端会議をはじめよう—	山口 忍	茨城県立医療 大学
	6 地域包括ケアシステムづくりにむけた地域と教育機関との協働を考える～三鷹市での地域包括支援センターでの卒業研究のとりくみから～	大木 幸子	杏林大学
	7 「学校外教育」としての「人生前半期の社会保障」～子ども・若者へのケアと発達保障の実践～	藤井 智	非営利法人文 化学習協同ネッ トワーク

○壁新聞(ポスターセッション)

(発表の時間 11月4日(土)13:00-14:00, 2日間掲示しています)

	番号	演題	代表発表者	所属
A 地域 社会 と こども	1	発達障がいの子どもと保護者のための余暇活動「きらめきハッピーキャンプ」の支援について	楠田 美奈	杏林大学保健 学部看護学科 基礎看護学
	2	茨城県小中学校の子どもをもつ父親の食行動と健康づくり-小学校の父親と中学校の父親との比較から	長澤 ゆかり	茨城県立医療 大学
	3	発達障害児(者)の子育てにおける主観的幸福感 ～ソーシャルサポート満足度との関連性～	久木 美怜	和歌山県立医 科大学附属病 院
	4	小学生の保護者の食事内容と健康づくりの関連	山口 忍	茨城県立医療 大学
	5	日立市における切れ目のない思春期教育の取組～小学4年生親子への性教育に関する実践報告～	大森 美恵子	茨城県 日立 市役所

	番号	演 題	代表発表者	所 属
B 高齢者の暮らしの支援	1	海外進出を目指す介護事業所の現状と課題～極東サハリン地区の高齢者介護について～	村田 道彦	東北文化学園大学
	2	住民・町・大学の協働による転倒・認知症予防講座の展開	堀田 和司	茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療学科
	3	介護予防事業における主体間連携の実態分析-広島県の3自治体を対象とした連携と変化	平岩 和美	広島都市学園大学健康科学部
	4	介護予防から始まる地域づくり～町会単位の高齢者向け筋力トレーニングにおける自主グループ活動を通して～	加藤 昌代	杏林大学保健学部看護学科看護学専攻
	5	農業・農村の特性に着目した介護予防コホートの研究デザイン	塩飽 邦憲	島根大学医学部
C 心のネットワーク	1	A圏域における精神保健福祉に関わる支援課題 ～個別支援会議録の分析から～	石井 敦子	和歌山県立医科大学保健看護学部
	2	人との交流、ネットワーク構築の推奨	道見 藤治	医療・福祉問題研究会
	3	精神科を長く利用されている方の体力と生活習慣について	塩原 直美	茨城県立医療大学
	4	酒量の多い男性が集う居場所づくり	工藤 慎吾	相馬広域こころのケアセンターなごみ
	5	地域活動支援センターともの実践	佐々木 健悟	地域活動支援センターとも
D 地域診断と人材育成	1	中堅保健師が実施する「地域の目指す姿を描く」地域診断	安藤 実里	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 自殺総合対策推進センター
	2	自治会単位の健康づくりに関する住民組織育成の研修プログラムの検討	檀原 三七子	桐生大学医療保健学部看護学科
	3	埼玉県内保健所「地域診断・事業評価研修」の実践とその成果	米澤 純子	東京家政大学看護学部
	4	地域包括支援センターと大学の協働による卒業研究としての地域診断の取り組み(第1報)	藤井 広美	杏林大学保健学部看護学科
	5	地域包括支援センターと大学の協働による卒業研究としての地域診断の取り組み(第2報)	後藤 佳子	三鷹市西部地域包括支援センター

	番号	演 題	代表発表者	所 属
E 新しいコミュニティづくり	1	災害後の住民によるまちづくりに、NGOとして支援してきたこと	白川 徹	特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター
	2	大町きらきらサロンの取り組みについて	鎌田 たつ子	南相馬市原町区大町きらきらサロン代表
	3	避難指示解除から1年 ～南相馬市小高の取り組みについて～	久間木 宏子	おだかふらっとほーむ
	4	東日本大震災被災者への健康相談実施状況の報告 -5年間の継続を通して-	綾部 明江	茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科
	5	西東京市新町サロン・ふらっと - 今までとこれから -	二瓶 愛子	西東京市新町サロン「ふらっと」実行委員会
F 誰もが暮らしやすい地域づくり①	1	阿見町におけるオレンジの会(認知症カフェ)活動の概要-第1報-	難波 千春子	阿見町議会議員
	2	阿見町におけるオレンジの会(認知症カフェ)活動の概要-第2報-	田邊 勉	阿見町民生児童委員
	3	高齢者の住まいとリバース・モーゲージの活用をめぐる法的課題	中田 裕子 松井 孝太	南山大学 杏林大学
	4	ちゅうげい地区の若者がつながるサポートシステムづくり～広域で取り組む～	廣末 ゆか	中芸広域連合地域包括支援センター
	5	「高齢者が生き生きと生活できる地域づくり～私達にできること～」	藤田 好彦	茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療法学科
G 誰もが暮らしやすい地域づくり②	1	難病サロン(モロモロの会)活動報告	鶴見 三代子	茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科
	2	在宅医療推進策として医師応招義務の改正	笹川 広子	
	3	感染症法前文とハンセン病療養所生活者のルポタージュを題材とした授業における看護学生の学び	叶多 博美	茨城キリスト教大学 看護学部
	4	地域包括支援センターの現状とこれから	渡部 英二	出雲市社会福祉協議会
	5	「誰もが安心していきいきと暮らせるまちづくり」を目標に活動するみたか社協の実践報告	日向 博	三鷹市社会福祉協議会

第21回日本健康福祉政策学会学術大会（東京）参加申込書

ふりがな			
お名前			
ご所属・部署名			
職名			
連絡先	<input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> 自宅	住所	
		電話番号	FAX
		E-mail	

参加費等	①大会参加費	正会員	() 4,000円
		一般（行政職・専門職）	() 5,000円
		準会員・学生・障がいのある方・市民	() 1,000円
	②お弁当（お茶付き）	11月4日（土）お弁当（むらぶさん）	() 800円
		11月5日（日）お弁当	() 800円
	③エクスカージョン	11月3日（金・祝）13:00～17:00	() 2,000円
④懇親会	11月4日（土） 17:30～	() 3,000円	
振込金額計			円

該当の項目の（ ）内に○をつけてください↑

●振込先 ※申込書をご送付いただいた後、2週間以内にお振込をお願いします。

多摩信用金庫 三鷹下連雀支店 普通預金 店番号 010 口座番号 2613629

第21回日本健康福祉政策学会学術大会事務局

ダイニジュウイッカイニホンケンコウフクシセイサクガツカイガクジュツタイカイジムキョク

●通信欄

--

●その他

--

送付先

E-mail	: jshwp@ks.kyorin-u.ac.jp	※ 本用紙は学会HPよりダウンロードください。
FAX	: 0422-47-8077	
郵送	: 〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1	
	杏林大学 日本健康福祉政策学会第21回学術大会事務局	

○会場アクセス

杏林大学「井の頭キャンパス」です。

「三鷹キャンパス」、「杏林大学病院」は別の敷地です。ご注意ください



・路線バスの場合

・タクシーの場合

吉祥寺駅から		
乗場	行き先	バス停
5番	杏林大学井の頭キャンパス	終点
2番	千歳烏山駅北口-新川経由	新川
3番	大沢・武蔵境南口	新川
4番	調布駅北口	新川
6番	深大寺・野ヶ谷・調布駅北口	新川

運転手さんに「杏林大学井の頭キャンパスまで」とお伝え下さい。
 ※三鷹駅、吉祥寺駅から、概ね1,000円程度です。

三鷹駅から		
乗場	行き先	バス停
8番	杏林大学井の頭キャンパス	終点

お問い合わせ

杏林大学 総合政策学部

日本健康福祉政策第21回学会大会事務局